

令和7年12月定例会一般質問 要約版

質問者 岸本 茂樹 議員

【ガバメントクラウドファンディングについて

(水資源を活用した新たな価値創造プロジェクト)】

質問1

議員：今漁業者を悩ませているサメが水揚げされても売れない状態が続いている。この状況を救済するために、今般水産資源を活用した新たな価値創造プロジェクトのガバメントクラウドファンディング事業が開始され、漁業者は大変喜んでいる。そこで、令和7年9月から始まった当該プロジェクトの現在の進捗状況と、今後の取組について町長に伺う。

町長：現在のガバメントクラウドファンディングの進捗状況は、12月10日現時点での寄附額は8,634,000円となっている。当初目標としていた500万円は令和7年10月9日に達成している。それ以降はネクストゴールとして目標額を800万円と設定した。今後の取組としては、未利用魚であるサメを活用した商品の開発や通浜ブランドのトータルデザイン、取引先の開拓などを行っていく。

質問2

議員：集まった財源の具体的な使途及び今後の事業展開について伺う。

町長：集まった財源の具体的な使途については、ガバメントクラウドファンディングのプロジェクトページにも記載されている通り、①通浜ブランド創出協議会の運営費②試作品開発のための原材料購入費③製品化した際のパッケージ等のデザイン費④通浜ブランドの広報費に活用する。また、今後の事業展開については前述した具体的な使途に沿った事業を展開していく。

産業推進課長：現在、通浜ブランド創出協議を中心に、漁具を荒らす厄介者であり、市場価値のつかないいわゆる未利用魚であるサメを活用した事業化にむけ取り組んでいる。近年このサメが増加傾向にあり、仕掛けを荒らしたり、せっかくかかった魚を食い荒らすといった現状がある。しかしながら市場で値段のつかないサメはそのまま海上で逃がすことが多く、悪循環が生じている状況である。最近では、積極的な営業活動や商談に加え、地元テレビ局でのメディア取材等を通して、着実に当協議会の未利用魚サメの利活用についての取組は認知され始めている。今後は、更に一般消費者の方に食べてい

ただき、おいしさを実感していただくために、未利用魚のサメを使ったフライの商品化を進めていく。加えて、直売所通浜や、地域活性化拠点施設「ぶらっつ」での販売、ふるさと納税の返礼品としての流通を見据えて、商品パッケージのデザインを含めたトータルデザインについて、外部デザイナーをお招きする予定である。

質問3

議員：来年度以降の事業の継続的な取組や追加事業はあるのか伺う。

町長：来年度以降の通浜ブランド創出協議会の事業については、次年度の協議会の事業計画を総会に諮り承認されたものに基づいて実施されるものと考えているが、基本的な考え方としては、「魚価を向上させ、漁業者の所得を上げる」ということを目標に掲げているので、この目標に沿った取組を継続していきたい。

産業推進課長：来年度以降の事業の基本的な考え方は町長が言われた通りだが、現在取り組んでいる未利用魚サメの利活用については、当然単年で結果の出るものではない。本年度は、認知度を向上させるためにメディア等へのプレスを積極的に行ってきただが、次年度以降は取引先の拡大や全国への販路拡大を図り、漁協等との連携を密にしながら目標達成に向けて引き続き取組を進めていく。追加事業については、適宜協議会に諮りながら実施していく。

【防災集団移転事業について】

質問4

議員：本町における防災集団移転事業に対する町の考え方と今後の方針について伺う。

町長：この事業については、住民の生命、財産を守る大変重要な事業の一つであると認識している。財産や他の事業との優先度、重要度を考慮しながら検討していく。

質問5

議員：防災集団移転事業に関する町民への情報提供の進め方について伺う。

総務課長：まずは、この事業について説明会を開くなどして対象となる地域の方々の正しい理解に努めていく。